

星と桜の森 様

愛用ミシン:MP470M スペシャルエディション

## ミシンと私

私が 5 才頃、何でもない日常の一コマで鮮明に覚えていることがある。40 年近く経った今でもよく思い出す。


母親に本屋さんに連れて行ってもらい、「好きな本を一冊買ってもいいよ」と言われたときのこと。ズラリと並ぶ絵本の前に立った私の目には一冊の本が目に入る。

「わたしのワンピース」という絵本。空から舞い降りた白い布でうさぎの女の子がミシンでワンピースを作り、そのワンピースを着てお散歩に出掛けるというお話。表紙には、ウサギさんがミシンでワンピースを作っている可愛い絵が書かれている。

私は、迷わずその一冊を買ってもらうことにした。

私の母は、裁縫が趣味で独学ながら幼稚園バッグ、手提げかばん、洋服など身につけるものほとんどを手作りしてくれていた。よく「ゆうちゃんのお母さんは何でも作れていいね」と言われてとても嬉しかったことを覚えている。作ってもらったもの全ては覚えてないが、一番良く覚えているのが水色で小花柄のワンピース。とても可愛くてサイズが小さくても無理矢理着ていたことを思い出す。





ミシンをしている母の姿が私には日常であり、ミシンが身近なものだった。母が服を作ってくれるという優しさに包まれ必然的にその本を選んだのだろう。

そして、私も結婚して子供が産まれて時間ができたらやりたいことに、ミシンを選んだのにはその影響があったように思う。

子供が幼稚園に入り少し時間ができたらミシンを購入し、いろいろなものを作りたいと思うようになり幼稚園入園前にどんなミシンがいいか調べ、ジャンメさんのミシンを購入。

一番最初に挑戦したのは娘と私のお揃いのフレアスカート。自分で作ったものを着るのは嬉しくて娘も喜んでくれた。

一枚の布から形になっていく工程が楽しくて、いろいろなものをいっぱい作りたいという思いでいっぱいになった。


最初は簡単なスカートしか作れず、息子にはいつも巾着や小物しか作ってあげられなくて、それでも喜んでくれてはいたけど、どこか姉の服ばかりができあがることに寂し気を感じている様子。思い切ってズボンに挑戦して出来上がったときの息子の嬉しそうな顔が忘れられない。

今、娘は 10 才、息子 5 才。まだまだ手作りの服や鞆は喜んでくれるし、こんなのを作って欲しい！と要求してくれる。それもまた、嬉しい。

そしてもう一つ楽しみがある。それは母と一緒に手芸という趣味を共有すること。

私の服を作ってくれていた母は今も裁縫を趣味としており、時間があればミシンと向き合い、色々作っている。出来上がったものを見ると断然、母の作るものの方が上手で私はまだまだだと思い知らされる。





一緒に手芸屋さんに行っては「この布で〇〇作ってはどうか？」「この布似合うかな？」など二人で布選びすることが楽しくてついつい長居してしまうことも。

またお互いの家に行っては、作ったものや購入した布のお披露目会が始まる。

この布買ったけど…やっぱりいらないからとか余った布の交換会も。

今回の「これからの100年へ縫いつなげよう」のタペストリーもそれぞれで作って応募しました。作品を見せ合ったり、楽しい時間が過ごせました。

今はコロナ禍であまり会えない日が続いているが、用事があって電話をしても結局は手芸の話になっていってしまう。

早くこの状況が収まり、また母と一緒に布選びや、話がいっぱいできるような日常が来て欲しい。

最近、娘もミシンに興味を持つようになり何かを作ってみたいと言い、小学校で使うランチヨンマットと一緒に作った。

作り終わると、「あ～楽しかった！」と一言。私も、いくつになっても娘とミシンでものを作る楽しい時間を共有できたら嬉しい。次世代にミシンの楽しさがたくさん引き継がれますように。